

02

片山八幡神社 | 愛知県 東区

「不可視な境界 -鳥居-」より

Katayama Hachiman Shrine | Aichi, Higashi-ku
from “Invisible border - Torii -”

映像メディア学科・助手

Department of Visual Media • Research Associate

村上 将城 Masakuni MURAKAMI

不可視なものを写真に定着させることはできるのだろうか。

この問いは、私が作品を制作する上での大きなテーマの一つとなっている。本作品での「不可視なもの」とは、鳥居が聖域と俗界とを分ける境界であると言われる、その不可視な境界である。私は特に信心深いわけでもないが、鳥居をくぐり、境内に足を踏み入れる瞬間に意識が変わるのを感じる。それは幼少時代からの経験に因るのか、知らず知らずのうちに根付いている、日本人としての自意識に因るのかは分からない。しかし、鳥居という一つの境界を越境する行為は確かに、意識の変化をもたらすのだ。

不可視なものを写す。現実的に考えると、目に見えない物を写すことはできないだろう。しかし、カメラによってフォーカス、ピントの深度などを操作し、鑑賞者の視覚を意図的に導くことで、擬似的にその境界を見る、つまり体感することができるのではないかと。視覚を誘導することで鑑賞者の中に境界という意識を芽生えさせるのだ。

撮影されたイメージの中の、境界／鳥居の背後に広がる不鮮明な画像に鑑賞者は何を見出すのだろうか。それは個々の経験から呼び起こされる、個人的な記憶なのかもしれない。その記憶が境界という表層にどのように反映されるのか。不可視なものを写しながら、同時に個々の思い／記憶を映す、という写真メディアを用いた作品に、私は新たな表現の可能性を見出している。



片山八幡神社 | 愛知県 東区, 2011 / Installation View

